

2020 年度第 1 回豊岡市障害者自立支援協議会全体会議 会議録要旨

注) 会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。
発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

○日 時：2020（令和 2）年 9 月 23 日（水）13：30～15：25

○会 場：豊岡健康福祉センター 3 階 第 2 会議室

○出席者：17 名

○欠席者：4 名

○会議要旨

1 開 会

2 あいさつ

3 新しい委員の紹介

4 報告事項

(1) 豊岡市障害者福祉計画策定にあたって

- ・ 資料に基づき説明

5 協議事項

(1) 障害者計画、障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る意見集約について

- ・ 資料に基づき説明

○ 意見等

≪ 1 障害者への理解について ≫

【A 委員】

少子高齢化が進んでおり、障害のある方だけでなく支援の必要な弱い立場の方を区全体で見守りするなどして支えている。

【B 委員】

障害者がおられることを隠すご家庭が多いように感じる。そのため、家族中心に支援が行われている状況であり、どのような形で支援に入っていくかという課題がある。

【H 委員】

障害者団体の会長をしている。相談員もおり作業所を利用されている方や団体の会員等はサポートできるが、それ以外の方については切羽詰まってから相談に来られることが多い。もっと早い段階からお手伝いができることがあるのではないかと思う。

また、ヘルプマークを身に着けているが、災害時には小さく分かりにくいので、社協が作成した障害があることが一目でわかる黄色のスカーフを配付している。しかし、必要な方全てに配付はできていないと思うので行政も協力してほしい。

【G委員】

地域において、障害のある子を育てる過程で苦勞することは、学校や地区における役割を担うこと。学校や地区の役については、母子家庭は免除されることが多いが、障害児の家庭には免除がなく、輪番で回ってくる。今のようにサービスがない状況でも、役を受けせざるを得ないため、幼い子どもに手伝ってもらなどしないと役割を担うことができず大変であった。ただ、役割を担うことは大変であったが、それ自体が悪かったとは思わない。サポートがあればもっと役割を全うしやすくなると思うので、親が地域の一員として参加できるようサポートできる体制をしっかりと作ってほしい。

また、役割を担っていく中で、地域の中に障害者の方がおられると思うが、地区や学校のイベントで、障害者の参加があまりないと感じた。もっと、一緒に交流できるイベントがあればよいと思う。

《 2 人材の不足・育成について》

《 3 資源の不足について》

《 4 サービスの充実と質の向上について》

【C委員】

相談支援専門員については、実務経験をクリアして研修を受けることで資格を取ることができるが、諸事情により仕事を離れる場合もあり、一時的に人材が不足する場合がある。また、人材育成をしたいが、目の前の業務が優先になってしまい育成ができない状況である。

【E委員】

相談支援専門員については、事業所での研修が難しく人材育成が難しい。基幹相談支援センターについては、人材育成の役割もある。但馬圏域では研修が行われている。相談支援の事業所からは制度や相談支援の流れなど基本的なことについての研修の要望はあるが、経験のある方については研修の要望がなく働きかけが必要と感じている。

共生型サービスについては、介護保険のデイサービスの利用者は少ないと聞いているので、今後制度の周知をして介護保険の事業所の理解を得ていながら、高齢者・障害者も含めて共生型サービスが進めばよいと思う。

【副会長】

共生型サービスを行っている事業所がないのであれば、先行的・試験的に取り込むことを意見として盛り込むことを検討したい。

【D委員】

生活力を高めていくことについては、精神の方の地域移行のためではなく、障害のある子どもの卒業の後、就労が目的になっていないかという話を運営会議でした。就労することのみが目標ではないので、生活のスキルを身に着ける生活の訓練の場が必要ではないかとの話をしていた。

【P委員】

学校では、卒業後に働くことを一番には考えてはいないが、就労して賃金を稼ぐことで、生活が豊か

になりモチベーションも上がるので力を入れている。ただ、そればかりでなく対人関係、起きる、挨拶をするなどの生活力などについても、学校では教えており、卒業後の長い人生を自分らしく生きていく力を教えていきたいと思っている。

《 5 地域生活に対する支援について 》

《 6 就労に対する支援について 》

【 I 委員 】

事業所では 14 名程度のメンバーがおり、就労希望もありハローワークにも行っているが、新型コロナウイルスの影響で仕事がない。近隣に協力的な区長がおられるので、メンバーには地区の行事にはできるだけ参加するように伝えている。また、事業所として、豊岡の市街地など他地域でバザーを行ったりして交流に力を入れている。色々な問題はあがるが、違う地域で色々な方に物を売って色々な経験をさせて地域でかわいがってもらいたいと思っている。地域で交流することにより徐々に変わっていく方もいるので、今後も努力していきたいと考えている。

【 L 委員 】

現在、仕事の相談には多くの障害者の方が来られている。相談を受けていて、本人に就労の意向はあるがまだその状態ではない方もおられ、これからどのように訓練していこうか思案している。また、就職された後、なかなか定着できていないという課題もあり、こちらについても今後どう支援していくべきか考えている状況である。

【 G 委員 】

「親亡き後の生活の場」という表現を「障害のある方の自立」という表現にできないか。子育ての段階から、わが身の亡き後を考えることは非常に厳しいと思う。

また、今は「親亡き後」でなく、「自分らしく自立していく」という考え方だと思う。「親亡き後」という表現は、家族と障害者が全然切り離せないイメージになるので考慮してほしい。

《 7 児童期の支援について 》

【 J 委員 】

課題に挙げていただいているとおりと考える。特に就学時、就職時のライフステージでどう繋いでいくかが大事。18 歳で児童福祉法の対象から外れて他法での支援となるが、18 歳を過ぎてからの支援では間に合わないケースが多い。その前にどのように関わっていくかが大事だと思う。幼稚園、就学の段階で支援者が適切に繋がるのが大事なので、そこでサポートファイルが有効活用されていないのであれば、使う人がメリットを感じていないからではないのか。親の能力や子育てのしにくさなどの課題があり支援が必要な家庭については、要保護児童対策協議会で定期的にケースを管理しているので、こういった場に繋いで適切な支援をしていくことも必要と思う。

就学のガイドブックについて今ない状況なのか。

【 事務局 】

市には就学ガイドブックのような詳しくまとめたものがないので、保護者に分かりやすく情報提供ができればと思っている。

【R委員】

適切な支援を受けずに大きくなった保護者が発達支援の子を育てているケースもあるため、支援が必要な家庭に適切な支援ができる仕組みは必要と思っている。お父さん、お母さんを支援するペアレントトレーニングが必要だと感じているが、その支援を行える人材が少ない課題もある。

サポートファイルの有効活用について、今どこが課題になっており何を改善することが必要なのか。サポートファイルの学校管理を変更するということはないのか。

【事務局】

サポートファイルについては、小学生から学校で管理をされており、保護者の手元にないのでサポートファイルを活用しにくいということは考えられる。ただ、個人情報にもなるので学校での管理が良いのではないかと考えている。先生と保護者との面談等においてサポートファイルを活用していただきたいと思うが、活用について先生に温度差があるのではないと思う。また、お子さんに関わる学校以外の支援者に情報が共有できない部分があるのではないと思う。

サポートファイルについては、福祉・教育・保健の分野の方で発達障害児等支援連絡会議においても議論しているが、現時点で個人管理という話は出ていない。

【G委員】

就学時の悩みは小学校入学のときだけでなく、中学校入学、高校入学、卒業後においても同様である。障害児の進学については、教育支援委員会において一年毎に判定される仕組みなので、保護者は毎年不安を持たれている。幼児期に保健師は関わるが教育は関わらない、就学すると教育がメインになる。特に幼児期も不安であり情報が不十分であるので、支援機関の横断的なサポート体制を構築してほしいとの話をよく聞く。

その中で、こども家庭センターなどいろいろな相談先があるのはよいことなのだが、色々な情報で混乱されるので、障害受容から横断的な支援体制の構築が望まれていると思う。他地域ではそういう体制が構築されているところもあると聞いている。

【副会長】

1の障害者への理解についての「幼少期から障害の有無に関係なく」や2の人材不足・育成についての「新型コロナウイルスの影響により～」、5の地域生活に対する支援についての「地域生活支援の見える化」という表現については、もう少し表現を考えてほしい。

人材育成に係る研修については、但馬地域は物理的な制約があるのでオンライン研修の活用を検討してはどうか。

また、地域生活や就労の支援については、平成29年に障害者の生涯学習支援を文科省が打ち出しており、豊岡市ではくすのき学校なども該当すると思うので、そのあたりも含めて表現した方が良いと思う。

サポートファイルの活用については、本日の議論を聞いていると計画に提案するのではなく、当協議会や別の場で協議すべきことにも思える。

今回協議した意見は次期計画に対する提言となる。協議会としての想いを伝えて、それを計画の策定委員会がどう表現するかということになるので、今回の意見を踏まえた上で修正をしていきたい。

【会長】

本日頂いた意見を基に自立支援協議会からの意見として修正をしたいと思います。今後の修正については、会長、副会長、運営会議代表及び事務局で行っていきたいと思います。

(2) その他

- ・ 資料に基づき説明
- ・ 部会及びグループの活動について口頭報告

○ 質疑応答

特になし

5 そ の 他

6 閉 会